

平成30年度 学術講演会

受講者募集のお知らせ

本会では学術事業の一環として「今、再び義歯を学ぶ - 加齢変化と口腔機能低下への対応 -」をメインテーマとし、標記講演会を開催いたします。是非ご参加下さい。

なお、グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社によるランチョンセミナーも併催致します。

1. 日 時

平成31年2月3日(日)
講演 10:00~15:40(受付 9:00~10:00)

※ホワイエ(会場入り口前)にて、業者展示を実施する予定です。

2. 場 所

歯科医師会館1階・大会議室
〒102-8241 東京都千代田区九段北4-1-20 TEL. 03-3262-1149

交通: JR 総武線・東京メトロおよび都営地下鉄「市ヶ谷駅」徒歩約5分

※駐車場のご用意がありませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

3. 演題・講師

メインテーマ: 『今、再び義歯を学ぶ - 加齢変化と口腔機能低下への対応 -』

10:05~11:45(100分) 講演Ⅰ『超高齢社会における“オーラル・フレイル”』

①加齢による咀嚼・嚥下の機能構造学的変化

②機能解剖学的側面からみた総義歯治療におけるチェックポイント

座長 東京都歯科医師会 学術常任委員会 委員 大山 貴司

講師 東京歯科大学解剖学講座 教授 阿部 伸一

11:45~13:15(90分) 休憩(ランチョンセミナー)

13:15~14:55(100分) 講演Ⅱ『口腔機能の低下に対応する義歯のトータル・マネジメント』

①形態と機能の両面から考える義歯のトラブルの原因と評価

②口腔機能低下に対応する義歯の調整と管理

座長 東京都歯科医師会 学術常任委員会 委員 橋詰 雅志

講師 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授 上田 貴之

15:10~15:40(30分) ディスカッション

座長 東京都歯科医師会 学術常任委員会 委員 大山 貴司

講師 東京歯科大学解剖学講座 教授 阿部 伸一

講師 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授 上田 貴之

12:00~13:00(60分) ランチョンセミナー(グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社 併催)

講演 『デンチャーケア』

講師 グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・

ジャパン株式会社 関東1テリトリーマネージャー(歯科衛生士)

岩崎 千佳

4. **研修単位** 日歯生涯研修事業の特別研修10単位と個別テーマ毎の単位が取得できます。
 講演Ⅰ・研修コード「2201」（2単位）, 「3405」（1単位）
 講演Ⅱ・研修コード「2608」（2単位）, 「3406」（1単位）
 ディスカッション・研修コード「3499」（1単位）
 ランチョンセミナー・研修コード「2608」（2単位）
5. **定員** 先着250名
6. **費用** 本会会員, 本会準会員, 日本歯科医師会会員：無料／非会員：30,000円
 (250名分の昼食を無料で配布する予定です)
7. **申込締切** 平成31年1月28日(月)
8. **申込方法** 本会ホームページ (<http://www.tokyo-da.org>) のイベント・講演会参加申込フォームまたは、
 下記の申込書に必要事項を記載の上, FAX (03-3262-4199) でお申込み下さい。
 ※受付は申込み順に行い, 会場の都合上, 定員に達し次第締め切りますので, 早めにお申込み
 下さい。なお, 定員超過後のみお断りの連絡をさせていただきます。
9. **問合せ先** 東京都歯科医師会・学術担当
 TEL 03-3262-1149 FAX 03-3262-4199

平成30年度 学術講演会 受講申込書

東京都歯科医師会・学術係 行
 FAX 03-3262-4199

ふりがな	
氏名	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員
地区名	歯科医師会
電話番号 (診療所)	
医療機関名	
連絡先	電話番号
	FAX番号

※申込締切：平成31年1月28日(月)

超高齢社会における“オーラル・フレイル”

東京歯科大学解剖学講座 教授 阿部伸一



- ①加齢による咀嚼・嚥下の機能構造学的変化
 ②機能解剖学的側面からみた総義歯治療における
 チェックポイント

高齢者の口腔領域では、歯槽骨の消失、骨粗鬆症、筋機能の低下、サルコペニア（加齢性筋肉減少症）、分泌唾液の減少、筋膜（SMAS）維持のためのリガメントの緩み、など多くの身体的な環境変化にさらされる可能性があり、何か歯車が狂うと徐々に口腔・咽頭領域の機能低下が進んでいきます。すなわち高齢者では、口腔領域全体として「虚弱」の状況を招く（オーラル・フレイル）可能性のある環境であり、歯科医療によって適正な咬合を維持することの重要性が、益々重要となってきています。

口腔領域の老化は、特に歯の喪失と密接な関係があります。本講演では、はじめに歯を喪失した場合の顎骨および顎関節部の形態変化について解説します。総義歯作成の臨床テクニックと重ねて解説していくことで、基礎的な解剖の知識の重要性を認識していただきたいと思えます。

次に咬合採得について機能解剖学的側面から考えていきます。下顎位とは、顎骨周囲だけの問題でなく、頭蓋骨と連結している脊柱の骨、ならびに頸部の筋と密接に関連しています。頸椎の中で第1頸椎（環椎）は頭蓋と関節する骨で、椎体を欠きます。第2頸椎（軸椎）は椎体の上面に、第1頸椎の椎体が癒合した歯突起をもっています。この歯突起を軸として環軸関節を構成し、頭蓋の回転が行われます。そして頭部と頸部の間には多数の筋が付着し、主に脊髄神経に支配されて頭頸部の運動が行われているのです。頸椎後部には多くの筋が存在しますが、頭位にとって重要な筋群に後頭下筋群があり、これらの筋の作用によって、頭が後方に引かれ、頭位が直立位に維持され、次に下顎の位置が決まっていきます。すなわち顎位決定には、この環軸関節が正常な姿勢の中

略 歴

あべ しんいち

- 1983年 芝高等学校卒業
- 1989年 東京歯科大学卒業
- 1993年 東京歯科大学大学院修了（歯学博士）
- 1994年 ドイツベルリン自由大学留学
- 2010年 東京歯科大学解剖学講座教授（現在）

【非常勤講師など】

日本大学歯学部、九州大学歯学部、九州歯科大学、千葉大学医学部、延世大学歯学部（韓国）、台北医学大学口腔医学院（台湾）他

で正しい位置に存在し機能することがその土台となるのです。さらに、咬合に非常に関係の深い顎関節については新鮮遺体を用い、動画でその動きの詳細を説明させていただきます。顎関節の形態は進化と発生から形作られた面と、その後の機能の変化に適応して形成された二次的な要素を含んでいます。この顎関節が持つ機能への対応能力は、高齢者にみられる頸部の姿勢の崩れなどにも対応する形で、負の順応をしてしまうことも理解していただきたいポイントです。

最後に総義歯治療に関し、機能解剖学的側面から咀嚼・嚥下機能と関連付け解説をします。口腔領域の組織は、咀嚼や嚥下の際に大きく重要な変化をします。口腔とは空間であり、その空間が形を変えるのです。すなわち、咀嚼・嚥下動作と空間を埋める総義歯の形態について、解説を加えます。

本講演では、高齢者の身体的特徴について、演者自身によって作製された、これまでにない術者の目線からの解剖写真、新鮮遺体を用いた動画などによって、機能解剖学的見地からの「オーラル・フレイルと咬合、関係する姿勢と顎位」などに関する解説を行います。

キーワード：フレイル、機能解剖、咀嚼、嚥下、高齢者

口腔機能の低下に対応する 義歯のトータル・マネージメント

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授 上田 貴之



①形態と機能の両面から考える義歯のトラブルの原因と評価

②口腔機能低下に対応する義歯の調整と管理

高齢者では、義歯装着者が依然として多数存在し、義歯の製作や調整は日常臨床の中心の1つです。いわゆる義歯の難症例と呼ばれる状態は、顎堤の吸収が顕著であったり、上下顎の対咬関係に問題があったりと、従来から形態的な視点を中心に考えられてきました。しかしながら、オーラルフレイルや口腔機能低下という視点を義歯の診療に取り入れることで、新たな問題点も見えてきます。

例えば、「食べるにくくなってきた」と患者が訴えた場合、どのような原因が考えられるのでしょうか。義歯装着後の長期経過の中で、義歯や残存歯の状態は変化していきますが、それと同時に口腔機能も変化します。舌や口唇の機能が衰えることにより、咀嚼能力が低下することもあります。漫然と咬合接触検査や義歯床粘膜面適合試験のみで評価を行いますと、そのような機能低下を見逃すことになりかねません。咀嚼困難の原因が人工歯咬合面の磨耗であると短絡的に判断して義歯を作り直したものの主訴は改善せず、加齢による唾液量減少が咀嚼困難の本当の原因だったと後からわかった、ということもあります。

したがって、補綴装置や残存歯の評価が必要なことは当然ですが、それだけではなく、機能の面でも評価を行い、対応する必要があるといえます。口腔機能には、咀嚼、嚥下、構音、呼吸、唾液分泌などがあります。そして、それらの機能は、様々な組織の複合的な働きによって成り立っています。そのため、口腔機能の評価を行うためには、多面的なアプローチが必要です。

平成30年4月の診療報酬改定では、「口腔機能低下症」に関する検査と管理が評価されました。口腔衛生状態不良（口腔不潔）、口腔乾燥、咬合力低下、舌・口唇

略 歴

うへだ たかゆき

- 1999年 東京歯科大学卒業
- 2003年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
- 2003年 東京歯科大学助手
- 2007年 東京歯科大学講師
- 2007年 長期海外出張（スイス連邦・ベルン大学歯学部補綴科客員教授）
- 2009年 東京歯科大学復職
- 2010年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座准教授（現在）

【学会活動】

日本老年歯科医学会常任理事・学術委員・専門医、日本補綴歯科学会学術委員・専門医 他

運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下の7項目の検査を行い、3項目以上が該当するものを口腔機能低下症と診断することになりました。また、有床義歯咀嚼機能検査の算定要件も緩和されました。なぜ口腔機能低下症の診断には7つの検査が必要なのか、また、これらの検査結果を、義歯の診療でどのように生かしていくのかについて、本講演で解説したいと思います。

また、顕著な歯槽堤の吸収に加えて、粘膜の菲薄化、唾液分泌の減少などによって、義歯の繰り返しの調整によっても疼痛が緩和されない場合も存在します。そのような場合、軟質材料による義歯のリライン（軟質リライン）や口腔保湿剤、義歯安定剤なども有効です。いずれの方法も、適応症を正しく選択し、適切な管理を行うことが重要といえます。それらについても本講演で概説させていただきます。義歯を形態と機能の両面から評価して対応する、義歯のトータル・マネージメントについて考える機会としたいと思います。

キーワード：口腔機能低下症、オーラルフレイル、可撤性義歯、検査、高齢者